

もくじ

勝専寺 千手観世音御分身… P1 千住・足立の武士と町人・百姓 (中) … P2  
新常設展示紹介④あだちふるさと食堂… P4

# 足立史談

第695号

2026年1月15日  
足立区立郷土博物館内  
足立史談編集部  
〒120-0001  
東京都足立区大谷田5-20-1  
TEL 03-3620-9393  
FAX 03-5697-6562

〔千住宿400年記念〕

## 勝専寺 千手観世音 御分身の建立

ごぶんしん

郷土博物館

### はじめに

去る令和七年(二〇二五)十二月十八日(木)、千住の

赤門寺として知られる勝専寺の本堂前で、「千手観世音 御分身」(以下「御分身」とします)の開眼式が、御住職の水野了信師によって行われました。



新しく勝専寺に造立された千手観世音 御分身

そこで、千手観音と地名由来についてご紹介します。

### 御分身について

秘仏の木造千手観音立像(足立区登録文化財)は千住の地名由来として知られていますが、千住宿四〇〇年の盛況とともに千手観音への参詣希望者が増えたことから、誰でも参拝できるように、本堂前に石造の「御分身」が建立されました。昨年五月の着想にもかかわらず十一月に建立できたのは、千住宿開宿四〇〇年に間に合うようとの想いがあったとのこととです。なお像の前にある石柱に示された「千手観世音」の文字は、足立史談会会長の相川謙之助氏の筆です。この御分身は茨城県の真壁石(花崗岩)で作られ、全高は約一四〇cm、像高約一一〇cmで台座が約三〇cmの大きさです。

### 地名由来の史料

勝専寺の千手観音は江戸時代から知られた千住の地名由来の有力説でした。とくに高田與清(たかだ・ともきよ)の次の一文が有名です。

高田與清「鹿嶋日記」

文政三年(一八二〇)九月七日の項

・千住の宿にいたる。

千住というは、もと千手の

あやまりにて、千手観音堂

ありけんに起れる名・

(早稲田大学図書館蔵)

文中の「千手観音堂」は勝専寺のことと、しばしば史料に登場します。與清(一七八三〜一八四七)は、江戸時代後期の人で、小山田與清の名でも知られた歌人・国学者です。

戯作者・大田南畝、漢詩人・大窪詩仏らと交流し水戸藩主・徳川斉昭の招聘により小石川にあった江戸の彰考館に出仕し、彼が蒐集した五万巻の蔵書をほこる擁書楼も著名でした。彼の千住の地名に関する考察は広く知られるようになり、江戸の地誌『砂子の残月』(天保九・一八三八

年頃)にも引用掲載されたほか、十返舎一九の滑稽本『奥羽一覽道中膝栗毛』(弘化五・一八四八年版)でも、歌枕風に千手観音が紹介されるなど、様々な書で知られるようになりました。

### 「御前立」と「御分身」

おまえたち

博物館の展覧会「千住宿四〇〇年」(一月十一日終了)では、メインビジュアルとして同寺が令和五年(二〇二三)に制作した御前立を現代の仏教彫刻としてご紹介しました。

令和元年(二〇一九)二月(二〇一九二〇)、木造千手観音立像の修復で、勝専寺とご縁が出来た東京藝術大学の藪内佐斗司先生にお願いした御前立は、美術作品として人気を博しました。御前立は、郷土博物館で開催され